

Effective Use of Wiki for Japanese Language Education

Mayumi Ishida

Dartmouth College

mayumi.ishida@dartmouth.edu

本稿では、wiki とその効果的な使用法について、ケース・スタディを元に論じたいと思う。

1 wiki について

現在私達に一番身近な wiki の例は、『ウィキペディア』というオンライン百科事典であろう。これは‘the free encyclopedia that anyone can edit’をスローガンに、ウィキメディア財団という非営利団体が2001年より運営しているもので、誰もが無料で自由に編集活動に参加できる百科事典である。2008年2月の時点では253言語の『ウィキペディア』が存在し、英語版には220万件以上、日本語版には約47万件の項目がある。

『ウィキペディア』には MediaWiki というフリー・ソフトが使用されている。

MediaWiki は『ウィキペディア』のために開発されたソフトで、『ウィキペディア』の名称はこのソフトと百科事典を意味する‘encyclopedia’の「ペディア」から名付けられたものである。MediaWiki は、PHP というプログラミング言語で書かれ、MySQL というデータベース・システムを使用することにより、ウェブ・ブラウザを利用してサーバー上のハイパー・テキストを書き換えることを可能にするソフトである。

Wiki ソフトには、『ウィキペディア』用に開発された MediaWiki だけでなく JAMWiki や YukiWiki など様々なものがあり、プログラミング言語も PHP だけでなく Java, Perl, Ruby などが使われている。そして wiki はウェブベースのものだけでなく、Desktop

WikiあるいはPersonal Wikiと呼ばれるローカル型のもの、またMobile Wikiという携帯機器、主に携帯電話での使用のためのものも存在する。本稿ではこのうち、ウェブベースのwikiについて言及したいと思う。

2 wikiの特性

まずwikiの特性について、三つのキーワードを用いて考えてみたい。

1) wiki

Wikiソフトの'wiki'という言葉は、ハワイ語の'wikiwik'が語源である。この言葉をハワイ語の辞書で調べてみると'fast', 'quick', 'speedy'という意味であることが分かる。この言葉が示すように、wikiには即時性がある。つまり、新たに作成されたページや既存の情報の編集が、瞬時にwikiに反映されるということだ。これは、特に複数のコラボレーションで一つの物を作り上げていくタイプの作業の場合、例えばウェブページのように、ローカルで作ったページをサーバーにアップロードするというステップが省かれ、瞬時に情報が共有できることもあり、非常に役立つ特性の一つだと思う。

2) portability

ウェブベースのwikiは、ウェブページやブログ、電子掲示板(BBS)などと同様にインターネット上に存在するものであるため、インターネットにアクセスできる環境であれば、いつでもどこからでもページを作成、編集、または削除することが可能である。これは現代の学生の性向を考慮した場合、彼らのライフスタイルに合った道具だと言えると思う。私が教えている大学だけではないと思うが、例えば「テープを聴く場所」であったランゲージラボが使用者の激減により改装され、別の目的で使われるようになった。

たということは、珍しくないのではないだろうか。これは、決められた時間の枠内にどこかに出向きそこで何かをするというよりは、24時間いつでもどこでも何かができることに慣れている現代人の性癖をよく表していると思う。

そしてダートマス大学のように、コンピューターがコースウェアの一つになっていて、どの学生も教科書やノートと一緒にラップトップを鞆に入れて持ち歩く生活をしており、キャンパス内はどこでもワイヤレス・ネットワークにアクセスできる環境である場合、wikiのようにポータビリティがあるメディアはアクセシビリティの面で非常に有効であると思う。

3) user friendliness

ウェブベースの wiki を使用するために必要なものは、ウェブ・ブラウザのみである。インターネットへのアクセスとウェブ・ブラウザさえあれば、wiki にアクセスして情報の閲覧、編集、新しいページの追加など全てできるわけだ。そして、文書をタイプする方法は基本的にはワープロと同じで、規定の箱の中にタイプすればそれがそのまま wiki に反映される。マークアップ言語はウェブページを作成する時に用いる HTML よりも簡易なもので、例えば文書中の文字を太字にしたい場合、HTML では というタグを使うが、MediaWiki の場合は'' ''で太字にしたい文字を囲むことによって同じ効果が得られる。そして、いちいちそのようなマークアップ言語を使わなくても、文書をタイプする箱には図1のような編集用ボタンがあるため、例えば MSWord などワープロ・ソフトを使用する時と同じように、太字にしたい文字をハイライトしてこのボタンを選択すれば、それが太字になって表示される。

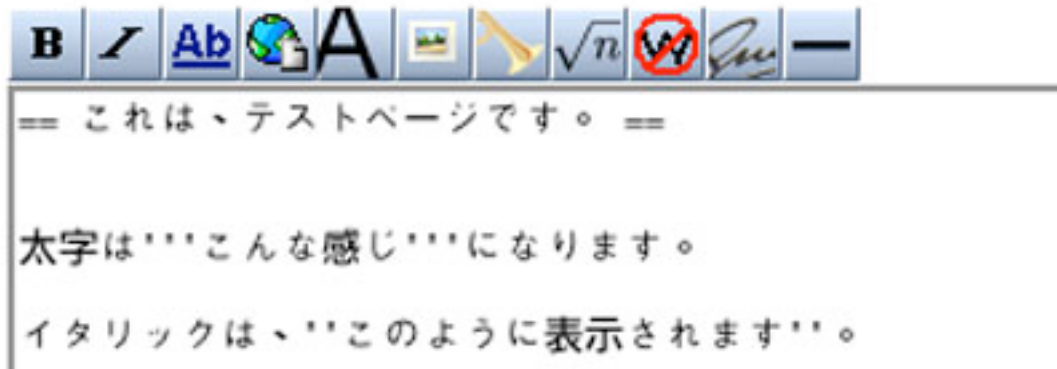


図1：編集用ボタン

図2は mediawiki を使ったテストページであるが、太字、イタリック、リンクの挿入、文字色、項目リスト、画像の挿入、表の作成など、HTML 使用で可能なことは wiki でもほぼ全て可能である。

これは、テストページです。

太字は**こんな感じ**になります。

イタリックは、*このように表示されます*。

リンク [🌐](#)も、このように簡単に挿入することができます。

文字色を指定部分だけ変えることも：**赤い文字**

- リスト項目1
- リスト項目2
- リスト項目3

もちろん画像の挿入もできます。おいしそうでしょ？

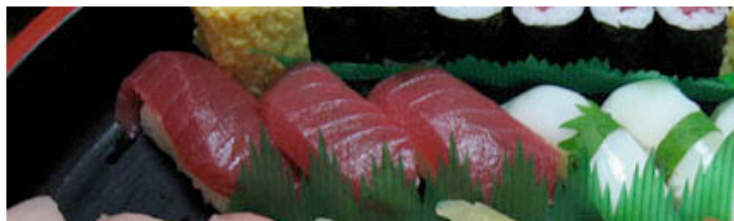


図2：表示ページ

図2のページを表示するためのエンコーディングは、図3のようになっている。

HTMLで使用するコードも使えるが、HTMLよりも簡易なものも多い。

```
== これは、テストページです。 ==  
  
太字は'''こんな感じ'''になります。  
イタリックは、''このように表示されます''。  
[http://www.google.com リンク]も、このように簡単に挿入することができます。  
文字色を指定部分だけ変えることも：<span style="color:red;">赤い文字</span>  
  
* リスト項目1  
* リスト項目2  
* リスト項目3  
  
もちろん画像の挿入もできます。おいしそうでしょ？  
  
<center>[[Image:sushi.jpg]]</center>
```

図3：エンコーディング

現代の学生は熱心なブロガーであったり、MySpace や Facebook などの SNS と呼ばれるソーシャル・ネットワーク・サービスに入り浸っていたりで、このようにオンライン上で文書をタイプすることには慣れている人が多いと思う。故に、前述の wik における portability と共にこの user friendliness という要素は、現代の学生のライフスタイルに合致していると言えるだろう。

教育者の観点からも wiki は user friendly であると言えると思う。Wiki の機能の一つに history (変更履歴) があるが、これは編集を重ねる度にその前のバージョンが作成日時のタイム・スタンプ付きで記録として残るものである。学生が wiki で提出した課題を考察してみると、提出前に何度か書き直してセルフ・コレクションができていたケース

もあり、教師から間違いを指摘された後どのように訂正したかも全て記録に残るため、結果だけでなく学生の学習過程もチェックすることができる。

また、過去の編集記録が全て一カ所に保存されていることも、user friendly と言えるだろう。例えば、文書をハード・ドライブ内に保存しておくより紛失などの確率が低くなり、「この間提出して直してもらったバージョンのドキュメントが見つからないんですけど、送ってもらえますか」などという学生からのリクエストを受けることもなくなる。Wiki 上で学生が誤って最新文書を削除してしまった場合も、過去のバージョンの記録が全て残っていることから、少なくともその前のバージョンまでは復帰させることが可能である。

全ての編集がタイム・スタンプ付きで記録に残るということは、例えば「月曜日の午後5時締め切り」などはっきりした時間付きの期限が設けられている場合、期限までに課題を提出したかどうかは一目瞭然であり、学生が苦しい言い訳をすることなどできない環境を作るという面でも、教師にとって user friendly であると言えると思う。

3 wiki のマイナス点

このように利点が多い wiki であるが、全てにおいてパーフェクトというものはほぼ存在せず、wiki にもその使用において注意した方がいい点があるいくつかあると思う。

1) 情報の信憑性

Wiki は、一つの文書を複数でのコラボレーションによって作り上げることを可能にするソフトであるが、例えば『ウィキペディア』のように、不特定多数の匿名の執筆者

によって書かれたり編集されたりし、査読制度もない wiki の場合、その情報の信憑性が常に問題になる。学業関連の目的で用いる wiki の場合、「不特定多数の匿名の執筆者」によりページが追加されたり、既存の情報が編集されたりということは稀だと思うが、wiki がインターネット上にあるということは、閲覧はもちろんのこと、設定によっては編集も関係者以外になされる可能性、つまり、関係ない記述がされるなどのスパム行為が行われる可能性がゼロとは言えない。

2) 即時性があるためのマイナス点

二点目は、即時性があるためのマイナス点であるが、これは特に一つの文書を多人数で編集している場合に起こりうる問題である。Wiki には、一人が文書を編集していてその wiki が編集モードになっていると、他の人は編集できなくなるという機能があるが、これは wiki に即時性があるために情報の交錯を回避するための機能である。普通はそれほど問題にならないが、一度私の学生が wiki のページを編集し、それを私が再編集することになっていた時に起こったという経験がある。その学生は「編集終わり」のボタンを押さずに作業を終えてしまったために、編集モードが解除されず、私とその文書の編集モードを使うことができなかったという例である。これは、学生に wiki の使用法を説明する時に指摘しておけば、大きな問題になる可能性は低いと思う。

3) テクニカルな問題

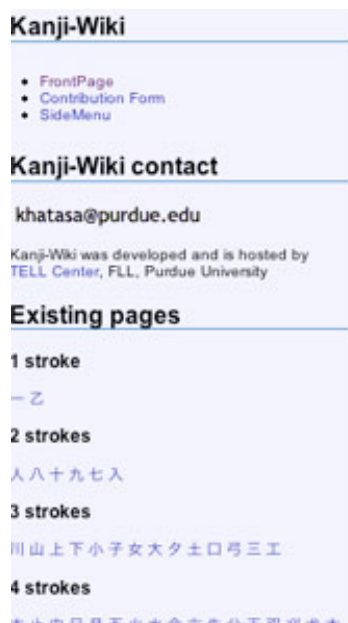
wiki はインターネット上に存在するものであるから、ネットワークがダウンするなどテクニカルな問題が起こった場合には、その wiki へのアクセスが全くできないという

事態になる。このようなことは、どのテクノロジーを使う場合にも起こりうることであるから、対策を考えておく必要がある。

4 wiki を使って効果的にできること

1) 共同作業

ここでは、パデュー大学の畑佐先生の KanjiWiki のサイトを例に使わせていただきたいと思う。このサイトは、漢字の覚え方のアイデアを皆で共有しようという主旨のもので、アイデアの投稿は学生のみならず先生からのものも可能である。畑佐先生が教えていらっしゃるパデュー大学がこの wiki のホストになっているが、他大学の学生からや高校生からの投稿もかなり見られるようである。このサイトは、Hiki という Ruby で書かれた wiki が使用されている。



Kanji-Wiki

- FrontPage
- Contribution Form
- SideMenu

Kanji-Wiki contact

khatasa@purdue.edu

Kanji-Wiki was developed and is hosted by
TELL Center, FLL, Purdue University

Existing pages

1 stroke
一 乙

2 strokes
人 八 十 九 七 一

3 strokes
川 山 上 下 小 子 女 大 夕 土 口 弓 三 工

4 strokes
* 止 由 日 月 五 山 金 宀 宀 公 王 四 田 木 十

Welcome to Kanji Wiki

Kanji Wiki is designed to be a site where students and teachers can submit their ideas to re
Mnemonic stories must be original. Copying from published materials will constitute copyrig
Let's make kanji learning easler and more fun!

漢字Wikiは学生や教師の方達が考えた漢字の覚え方をみんなで共有しようという主旨で作ら
に投稿することができ、みんなで漢字学習に役に立つサイトになればと考えています。

投稿する覚え方のヒントはオリジナルに限られます。出版物からの転用は著作権違反となり
い、奇抜なアイデアを出し合って、漢字を覚えやすくしていきましょう。

どんどん投稿してみてください。

図 4 : Kanji-Wiki: <http://tell.fll.purdue.edu/KanjiWiki/>

このサイトを見ても分かるように、wiki は共同作業をするのに非常に優れたソフトである。これは、一つの文書を多人数が共同編集できるためであるが、同じことを例えばワープロ文書でしようとする、一人の編集が終わる度にそれを編集グループ全員に送るという手間になり、また文書名にシステムがない場合、デスクトップ上でどれが最新バージョンだったかはっきり分からなくなる、などのマイナス点がある。そのような手間や分かりにくさ、煩雑さを省き、いつでもどこでもその文書の最新バージョンが閲覧でき、必要があればグループに属するメンバーが誰でも編集できるため、共同作業で wiki はその特性を最も発揮できるはずである。

2) 整理整頓

Wiki は、整理整頓が非常に得意なソフトである。Wiki 内でしたことは全てタイム・スタンプ付きで記録に残り、サイト内の階層やリンク先など全て自分で決めなければならないウェブサイトの構築と違い、新しいページを追加すれば、そのページへのリンクが wiki 内のどこからでもアクセス可能なように生成される。つまり、『ウィキペディア』のように膨大な数のエントリーがあっても情報がきれいに整理整頓され、検索すれば必要な情報が瞬時にリトリブできるようになっているのである。これは、情報量の多いサイトを扱う場合特に重要になって来るが、サイズの小さいサイトでも、メディア・フルエンシーが低い人にも編集者の一部になってもらう場合、テクニカルなことを気にせず内容に集中できるのは、非常に重要な要素だと思う。

5 wiki 使用例

この項では、私がダートマス大学で実際に用いている wiki の使用例をご紹介したいと思う。

私がコースで wiki の使用を始めたのは、2007年春学期である。それ以前から wiki の特性に注目して、使用方法を色々考えていたのであるが、アカデミックで使う wiki をオープンにして、世界中どこからでも誰からも閲覧可能にしているものだろうかという点をずっと疑問に思い、その使用を躊躇していた。しかし、ダートマスで使用している CMS である Blackboard のバージョン 6 より wiki がパッケージに含まれていることを知り、それまで温めていたアイデアを試してみることにした。Wiki がパッケージの一つになっている CMS は Blackboard に限らず、例えば Moodle などにも wiki が含まれている。

コースでは、wiki を「共同作業」と「個人作業」の二種類の作業に使用している。このため、まず Blackboard 内に二種類の wiki を設置した。一つはクラスの wiki で、これは登録学生全員がアクセスできるものである。もう一つは個人の wiki で、その wiki の持ち主である学生と教師のみが閲覧、編集できるものだ。「共同作業」はプロジェクトのブレイン・ストーミング、文型例文リスト、「個人作業」は文型練習、プロジェクトのブレイン・ストーミング後の全ての作業に使用した。

1) 文型練習／文型リスト

Blackboard 内の wiki を初めて使用したのは、2007年の春学期に教えていた日本語 33 という三年生のコースである。このコースでは、教材は全て生教材を使用してお

り、この年は金井直の「木琴」という詩から始まり、村上春樹の短編小説「パン屋再襲撃」で終わった。学期中に扱った読み物には、これだけはマスターして欲しいという文型のリストと説明を付けてあり、学生がその文型練習をするのに wiki を使用した。

新しい文型が導入されると、学生は個人の wiki にその文型を使って短文を作る。教師がそれをチェックし、学生はその後訂正したものをクラスの wiki にペーストする。つまり、クラス全員がアクセスできる wiki に、各文型について学生の人数分の例文が集まることになる。ここまでは学生が自宅でする準備段階で、授業中には集まった例文についてのディスカッションと関連練習を行った。文型練習は宿題の一部として提出する課題で、シラバスに提出期日を明記してある。

同じ方法を2007年秋学期の三年生の一学期目のコースでも用いたが、これはなかなか効果があったと思う。学生はまず自力で例文を作り、それを教師がチェックしてコメントし、間違いがあればそれを訂正したものをクラスの wiki で発表するというステップを取っていたため、皆が閲覧するクラスの wiki のページには、文法・語彙などの間違いがない例文がリストされることになる。このレベルになると、各学生の理解度や単語・文法力は均一とは言えないので、個々の学生に合わせた指導ができることも効果的である要因の一つである。そして、一人で複数の例文を作るのは大変でも、皆が持ち寄れば結構な数の例文を見ることができるようになるという利点もある。

以上は、個人作業である文型練習と共同作業である文型リスト作りという、二つの使用法を組み合わせた wiki 運用例である。

2) プロジェクト

Wiki 使用の二番目の例は、プロジェクトである。これは、三つの違うレベルのコースで同じ方法を用いてみたが、どのレベルでもうまくいくようである。

a. 「日本映画に見る第二次世界大戦」（2007年春学期）

Wiki を初めて導入した2007年の春学期には、三年生の三学期目のコースで「日本映画に見る第二次世界大戦」というプロジェクトを行った。これは、その学期に扱った読み物の一つに関連したトピックであるが、日本の戦争映画を一本選び、その映画の中心テーマを考察・研究してペーパーを書き、それを元に口頭発表を行うというプロジェクトである。Wiki を共同作業に使ったのはこのプロジェクトのブレイン・ストーミングの段階で、日本の戦争映画にはどのようなものがあるか皆で調べてみよう、という課題であった。

このプロジェクトを行ったのはその学期が初めてではなく、以前はこの段階を教師が学生に与えるような方法を取っていた。つまり、大学のメディア・センター所有の戦争映画のタイトルを教師が調べ、そのリストの中から選ばせるという方法である。これは、学生が入手困難な映画を選択するのを回避する目的で取った方法であるが、反面、学生に日本の戦争映画の全体像が見えにくい環境を与えてしまっていることになる。

それを改善するため、wiki を導入した学期から各学生に戦争映画を二本調べるという課題を出し、学生はそれを持ち寄ってリストを作る作業を行った。この学期は学生が十名ほどのクラスであったが、教師が追加したものも含めて23本の映画のリストができた。リストには、映画の邦題、英語名、監督名、制作年、内容、調べた学生名、イン

ターネット上の映画データベースへのリンク、メディア・センターに DVD などがあるかどうか、あればコールナンバーを書くという七項目であった。内容は詳しいものではなく、戦闘シーンがメインである所謂戦争映画なのか、あるいは、戦争中の疎開を扱ったもの、原爆の影響などについて、敗戦後の占領下での状況を扱ったものなど、そのおまかなジャンルを調べて書くことになっていた。

リスト作成後学生はそこから一本映画を選択したが、自分がリストに載せたものでも他の人が調べたものでもいいことにしていた。自分が調べたものをプロジェクトのトピックにした学生はほぼ半分で、残りの半分は他の人が調べたものを選択していた。自分が調べたものでないものを選択した学生は、簡単に DVD が手に入らないものを調べてしまったことが原因の一つのようである。

映画を選択した後の書く作業は全て個人作業になり、個人の wiki を使用した。また、ペーパーの最終稿が完成した後で、そのペーパーが一覧できる wiki のページをクラスの wiki 内に作り、口頭発表の前までに目を通しておくことを推奨した。つまりこのプロジェクトでは、「共同作業」から始まって、最終的に「共同作業」に戻るような流れになっていた。

b. 「ダートマス出身の著名人」（2007年秋学期）

2007年秋学期に三年生の一学期目のコースで、「ダートマス出身の著名人」についてのプロジェクトを行った。このコースでは毎年、学生の身近なトピックについて調査し、それを日本人に紹介／説明するというプロジェクトをしているが、2006年秋学期までは、学内の建物について調べそれを日本人に紹介する記事を書くというプロ

プロジェクトを三年ほど行っていた。このトピックは非常に効果的だったが、三年分のプロジェクトでキャンパス内の主な建物をほぼカバーしたこともあり、2007年秋学期は心機一転して、ダートマスを卒業して様々な分野で活躍している、あるいは活躍していた著名人について調べ、その人を日本人に紹介・説明する記事を書いてそれを元に口頭発表を行うというプロジェクトにした。

まず学生は、ダートマス大学の卒業生の中から一人当たり二名の著名人を調査した。リストには、その人の氏名、生没年、どの分野で活躍している／していた人か、調べた学生の名前などを書いてもらい、写真が見つければそれもアップロードすることにした。その後、プロジェクトのトピックにする著名人を一人選択したが、自分がリストに載せた人を選んだ学生は六名中三名だった。これは、学生が選んだ人が「ダートマスの卒業生」という条件を満たしていなかったことが一番大きな理由だったが、最終的にクラスメートが調べた著名人をトピックに選んだ学生が二人、新たに調べた学生が一人いた。

次に、調査項目のリストに基づいてトピックに選んだ著名人について調べ、それを調査結果として提出した。調査項目はこちらで指定したが、選んだ著名人の生没年、出身地、ダートマス卒業年、学生時代について、大学卒業後の人生、仕事、興味深い事実などについて調べることになっていた。学生は、調査結果を元にドラフトを書き、文法的な間違いなどを訂正して、ファイナル・ドラフトを提出した。ここまでが個人の wiki を使った作業だったが、このプロジェクトには、「クラスメートの記事を読んで感想を書く」と「日本人に記事を読んでもらって感想をお願いする」というタスクがあったため、記事発表の場は Blackboard から出て、公開されているブログを用いた。

c. 全国おいしい物プロジェクト（2008年冬学期）

プロジェクトに wik を用いた三つ目の例は、現行の2008年冬学期に一年生のコースで行っている「全国おいしい物プロジェクト」である。これは、自分の名前の仮名と同じ音で始まる日本の都道府県を一つ選び、その都道府県と郷土料理について調べるといふプロジェクトである。三年生のコースで行ったプロジェクトと同様、調査を元にペーパーを書き、学期の最後に口頭発表を行うことになっている。

このプロジェクトでは wiki を主に個人作業に用いているが、プロポーザルを個人の wiki ではなく、クラス全員がアクセスできるクラスの wiki に提出してもらった。これは、トピックとして選ぶ郷土料理がなるべく重ならないようにという目的の他に、誰がどの都道府県と郷土料理を調べるかをオープンにしておくことにより、学生が自分の選んだものだけでなく、クラスメートの人数分の都道府県名と郷土料理が写真付きのリストとして見られることを目的としたものである。

まず学生はプロポーザルをクラスの wiki に書き、その後調査結果を提出した。この調査結果は質問が十あり、それに答えるという形式を取っていた。質問の半分は選んだ都道府県についてで、その都道府県名、それが北海道、本州、四国、九州のどの島にあるか、どの地方にあるか、その都道府県の県庁所在地、地理的特徴である。もう半分は選んだ郷土料理についてで、その料理名、材料、名前の由来、簡単な作り方、そしてその料理に関して何かおもしろい事が分かればそれを書くという作業だった。

本稿で紹介した三つのプロジェクトはどれも、一学期間かけて口頭発表以外全て授業外に行うものである。各タスクには締め切り日が設けられており、学生はその締め切

り日までに自主的に作業を行うことになっている。これは、学生が自分のペースでプロジェクトを進めることを目的としたものであるが、このような作業における学生の個人指導でも、wiki が wiki であること、つまり即時性があること、portability があり user friendliness であること、そして共同作業にも個人作業にも使えるという理由で、wiki が非常に有効な道具であると言えると思う。

6 学生の反応

文型練習とプロジェクトに wiki を使用した 2007 年春学期と秋学期の三年生のコースの学生を対象に、コースについてのアンケートを行ったが、その中に wiki の使用に関する質問項目が含まれていた。学生の回答を前述の wiki の特性を表すいくつかのキーワードに沿って考察してみたいと思う。

一番多かった意見は、wiki の user friendliness と共同作業についてのものであった。Use friendliness については、「wiki の使い方は簡単だし、プロジェクトをする時ドラフトは wiki で直しやすいから、wiki はいい道具だと思う」、メールでローカル文書を送るのと比べると、「compatibility issue や他のテクニカルな問題について考慮しなくてもいいので、ドラフトなどを提出するのはとても便利だった」「wiki を使うのは最初はちょっと難しかったけど、すぐとても便利になりました」などの意見があった。2007 年春学期のコースの学生の中には、wiki を初めて使用した学生も数人含まれていたが、上記の学生の意見にあるように、学生はすぐに使い方に慣れてそれが便利で効果的な道具だと認識していたようである。

共同作業については、映画のプロジェクトで「クラスメートが選んだ戦争映画のリストと最終的なペーパーを見ることができたのはよかった」という意見があり、文型練習の方では「試験の前に皆で作った例文を読むのは、いい準備になった」「クラスメートが作った例文を読むことができたのがよかった」との意見があった。

整理整頓が得意である wiki の特性については、「全部一カ所にあるのがよかった」「見やすくよかった」などの意見があり、portability については、学期中にコンピューターのハード・ドライブが故障してしまった学生が、「他のコンピューターでプロジェクトの宿題をすることになった時、全部 wiki ですればよかったので助かった」と言っていた。最後に wiki の wiki であること、つまり即時性については、「wiki の一番いい所は、インスタントなフィードバックがもらえることだと思う」と答えていた学生が複数いた。

7 まとめ

現在までに三つのコースで文型練習とプロジェクトに wiki を使って来たが、wiki のこのような使用法について否定的な意見を持つ学生はいないことから、wiki の使用は今後も続けるつもりである。一年生のコースで wiki を使用したのは2008年冬学期が初めてであったが、その前の学期に小さいプロジェクトを行った際、日本語のタイプの仕方を教えたこともあり、wiki に日本語でタイプができないと言った学生は一人もいなかった。ウェブ・ブラウザを使って日本語を表示する、自分のコンピューターの日本語環境を整える作業は、授業で毎日ウェブページを使うことから一年生の早い時期から

導入しているが、wiki の使用に関しても、日本語を使う場合にはこのような準備作業は不可欠であろう。私のコースでは授業時間を割いてこのようなことを説明する時間がな
いので、コース・サイト内に説明のページを作り、学生にはそれを読んで自分のコンピ
ューター環境を整えるように指導した。

プロジェクトのドラフトの長さは MSWord で行間、マージン、フォントサイズなど
を指定してあったので、学生はまずローカルで文書を作り、それを wiki にペーストする
という方法を取っていたようである。Blackboard 内の wiki の場合、コースが終了すると
学生は個人の wiki にもクラスの wiki にもアクセスできなくなるが、まずローカルで文
書を作っていたため、自分が書いたものが全く手元に残らないということにはなかった。
しかし、一応アクセスできなくなる旨は学生に話して、自分のコンピューターに wiki
をセーブしたい人はそうするように指示した。Wiki をローカルに落とすには、Blackboard
内の wiki の場合は ToolBox の Export Site でできる。

「三人寄れば文殊の知恵」という諺があるが、一人で出来ることは限られていても、
皆で協力すればもっとスケールの大きな、そして内容も充実したことができる、という
ことは色々な場面でしばしば起こりうることだと思う。これは日本語の学習においても
同様に、wiki はまさにこの実現を容易にする道具だと言えるのではないだろうか。